

# レポート in 徳島&奈良

10月12日 徳島県那賀町

10月13日 奈良県王寺町

## 研修テーマ

10月12日 徳島県那賀郡那賀町(なかくんなかちょう)  
●ドローンを活用した取り組みについて

10月13日 奈良県北葛城郡王寺町(きたかつらぎくんおうじちょう)  
●子育て支援施策の取り組みについて  
●子育て支援センターの見学



## 徳島県那賀町

伊藤秀樹

最近ドローンが話題になっている。

自治体においても、災害時の被害状況の調査や情報収集のためにドローンの導入が進んでいる。

飛鳥村においてもドローンを導入することになった。

よって、その目的や活用状況及び方法を参考に

するため、ドローンで町おこしを進めている徳島県那賀町を視察した。

## 那賀町の概要

那賀町は、四国徳島県

の東南に位置し、標高1000メートル以上の山々に囲まれた清流と森の町である。

面積 約695

平方キロメートル

人口 8707人

(徳島県2番目の面積)

高齢化率 47・13%

主な産業

きょう柚子

わじきイチゴ  
相生晩茶  
温泉や自然を生かした  
観光  
周りは山ばかりだが林業は少ないそうだ。



## ドローン取り組みの

きっかけ

徳島県から高知県に抜ける剣山スパー林道が台風の影響で通行できなくなった。

災害状況の調査にあたりヘリコプターが利用できないため、町の職員の提案でドローンによる調査を検討したことが発端となりドローンで町おこしを進めることになった。

# 議員行政視察

## 主な活動内容は

ドローンの空撮に適した場所を紹介する「ドローンマップの作成」  
鳥獣害対策の「夜間空撮実験」  
実証実験のアイデアを出し合う「企画会議」など取り組みが続いている。



## ドローンの可能性

ドローンの特徴は、飛行物体としては廉価。安い物で数万円、実用的なもので15〜30万円程度で自動運航や4Kカメラで上空から「観測」「調査」ができる。



大型のドローンもある

がそれでも数百万円程度。仮に墜落しても小型であるため被害が小さい。人が入れない自然災害の対応・鳥獣被害対策・トンネル橋梁の調査の他、高齢者の見守り・山間部へ薬や物資輸送の可能性がある。

## 利活用実施事業

平成27年春より「日本一ドローンが飛ぶ町」を目指し、ドローンを活用した町おこしに取り組んでいる。

○平成27年

・徳島県版「地方創生特区」として「ドローン特区」となる。

・各種実証実験や関連法の周知と今後の利活用の実証を行う。

・那賀町役場職員への操縦講習会を開催

○平成28年

・ドローンを活用した輸送実証実験(国土交通省)

・とくしまNAKAドローンの日制定



・ドローン推進室設置  
・木材集材用ワイヤーのリードロープ展張  
(130m・250m・400m)

・ドローン活用技能管理者スクール開催  
・災害時における小型無人航空機の運用に関する協定締結

・ドローン操縦講習会開催  
・那賀町オリジナルドローン購入

・林業実証実験(苗木の育成状況及び防護ネットの上空からの破損確認)

・全国ドローンレース選手権四国予選開催

・那賀町ドローンマップ完成(フライトスポット

を紹介)  
・国際ドローン展出席とさまざまな活動を展開している。

## 飛鳥村におけるドローン導入の問題点

飛鳥村は災害時の活用を目的としてドローンを購入するため、利用頻度が限られる。  
日頃から、公共施設や防災施設の上空からの点検や空撮等を通じて技術の習得・熟練・維持が必要になる。

さらに、将来に向けて新たな利活用を模索する必要があるのでないか。

必要があるのでないか。



# 奈良県王寺町

鈴木康祐

奈良県王寺町はJＲ西日本、近畿日本鉄道が中心部を走り、大阪市天王寺駅まで19分、奈良駅まで16分と地理的に有利で、大阪市への通勤率が28・5%と高く、町内は新興住宅地が多く、面積は全国の町村部で最小級でも人口密度は屈指の高さを誇り、さながら小都市圏の様相を呈している町の印象を受けました。

また今回視察させていただいた「王寺町すくすく子育てセンター」には聖徳太子の愛犬「雪丸」のゆるキャラがいて、歴史を大切にしている町でもあります。



雪丸



合併問題では、奈良県北葛城郡に属する3町と生駒郡の4町の合併が協議され県内第2位の12万都市の計画は、商業都市王寺町と世界遺産の法隆寺を擁する斑鳩町がともに財政状況がいたため住民投票により反対多数のため白紙となり現在に至っています。

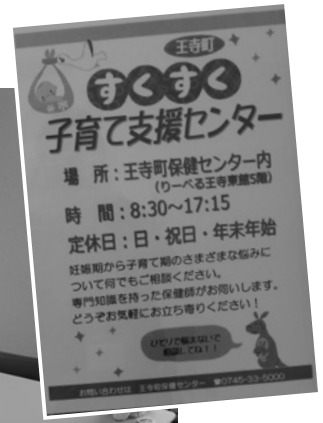
今回の研修では、王寺町の「子育て施策の取り組み」で同町の「すくすく子育て支援センター」で職員の方に説明をいただいたが、どこの自治体でも悩みは同じで少子高齢化の中、いかに次世代の形成をしていくのか、一

早く取り組まれた事例を教授していただきました。

「すくすく子育て支援センター」は、町の中心地で王寺駅に直結した「りーべる王寺東館」の5階、西友をはじめ、各種クリニック、銀行や郵便局などの業務施設、飲食店・アミューズメント・雑貨・衣料専門店等の都市型の魅力的なショッピングセンターに開設されていて、相談支援では、どこの自治体でも妊娠中に母子手帳が交付されるが、王寺町では父子手帳を発行して父親にも育児参加を促し、専門知識を



すくすくひろば



持った保健師と出産を控えた夫婦二人が一緒に、妊娠期から子育て期の様々な悩みの解消を図り、不安を軽減して、安心して妊娠・出産・子育てできる体制を整えていました。また「すくすく子育て支援センター」では、サポートが必要な妊産婦さんや生まれてきた子どもには、必要に応じて個別プランを作成して、困りごとに応じて、医療機関など関係機関と連携して、継続して電話や訪

間による支援を行う取り組みをしているとのこと。王寺町では出生率が、平成24年1・40だったのが平成27年1・71、全国平均1・44を上回る結果として表れているのは、職員が連携を取り、目指すものが何かということではっきりとしていることとで、必要な時に必要な住民サービスを職員の方たちが子育て世代に提供できる体制を整えて、安心感を与えているからだ

と痛感させられました。

## 国・県へ 意見書

今定例会で提出された意見書は次のとおりです。

◎国の私学助成の増額と拡充に関する意見書

提出者 服部康夫  
(全員賛成で採択)

提出先

内閣総理大臣・財務大臣・文部科学大臣・総務大臣

◎愛知県の私学助成の増額と拡充に関する意見書

提出者 服部康夫  
(全員賛成で採択)

提出先

愛知県知事

◎介護保険制度の改善を求める意見書

提出者 加藤光彦  
(全員賛成で採択)

提出先

衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣・厚生労働大臣